

コーディネーター通信

イナバ タイムズ

# INABA TIMES

第 61 号 平成 25 年 3 月 22 日 三重県立稲葉特別支援学校 特別支援部発行

春の到来ですね。



運動場の早咲きの桜が、春の訪れを知らせてくれています。

もう 1 年が経つのですね。本当に月日の経つのは早いものです。この間、入学式そして始業式を迎えたと思っていたら、もう今日の終業式を迎えることになるのですね。

この 1 年間児童生徒の皆さんは、どのような学校生活を送られたでしょうか。友達と笑いあったり、遊んだり、勉強したりできましたか？運動会や学校祭で自分たちの持てる力を十分に出すことができましたか？校外学習に行って、様々な経験を積むことができましたか？担任の先生からたくさんのことを学びましたか？

今日、終業式を終えて皆さんは 1 年間の課程を修了しました。おめでとうございます。保護者の皆様も子ども達を学校へ送り出して頂き、また、運動会や学校祭の行事には、ご家族で参加していただき、本校の様々な教育活動にご協力いただき本当にありがとうございます。

明日からは春休みとなります。4 月 8 日の始業式には、子ども達が元気よく登校してくるのを教員一同待っています。

どうぞ、体には気を付けて、楽しい春休みを過ごしてください。

## コーディネーターは何をする人？

「イナバタイムズについてのアンケート」の回答の中に、コーディネーターの仕事についてのご質問を複数頂きました。そこで今号では、コーディネーターが何をしているのかお伝えしたいと思います。コーディネーターは簡単に言いますと、「調整役」と言われています。何を調整するのかというと、主に学校と学校、学校と外部機関、学校と保護者のように、学校に関わるあらゆる機関や立場の方とスムーズな関係作りや学校の教育活動の理解や支援に繋がる調整を行う立場と言えます。これまで、コーディネーターはいなくても、学校は成り立ってきました。しかし、時代の移り変わりと共に、特別支援学校に求められるものも変化し（その例がセンター的機能です）、校内の児童生徒だけの指導を行っていればそれでよいということではなくなってきました。2 年間のコーディネーターが行ってきた主な業務について 3・4 面で簡単に説明したいと思います。

毎年4月2日は国連の定めた

## 世界自閉症啓発デー 発達障害啓発週間 4月2日～8日

国連総会（H19.12.18 開催）において、カタール王国王妃の提案により、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」（World Autism Awareness Day）とすることが決議され、全世界の人々に自閉症を理解してもらう取り組みが行われています。わが国でも、世界自閉症啓発デー・日本実行委員会が組織され、自閉症をはじめとする発達障害について、広く啓発する活動を行っています。

具体的には、毎年、世界自閉症啓発デーの4月2日から8日を発達障害啓発週間として、シンポジウムの開催やランドマークのブルーライトアップ等の活動を行っています。自閉症をはじめとする発達障害について知っていただくこと、理解をしていただくことは、発達障害のある人だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができる社会の実現につながるものと考えております。

（引用 世界自閉症啓発デー リーフレット 文 山崎晃資）

### ●世界自閉症啓発デー日本実行委員会公式サイト

<http://www.worldautismawarenessday.jp>

津市障がい者相談支援センターより2つの情報をいただきました。

### ①第5回三重県自閉症協会作品展（世界自閉症啓発デー特別企画）

日時：平成25年3月28日（木）～3月31日（日）

10：00（初日のみ13時から）～16：00（最終日のみ14時まで）

場所：津リージョンプラザ（津市役所隣）3F 展示場

〒514-8611 三重県津市西丸之内23-1

主催・問い合わせ先：三重県自閉症協会 入場無料・申込み不要

三重県自閉症協会ホームページ <http://www.ztv.ne.jp/tbatuhk3/miejihe>

### ②障がい者のための虐待防止研修

講師：三重合同法律事務所 石坂俊雄 弁護士

対象：「虐待って何？」というご本人さんやご家族、「これって虐待かな？」

と判断に困っている地域住民の方や、関係機関の皆様、どなたでも。

日時：平成25年3月28日（木）13：00～15：00（12：30より受付）

場所：津市安濃庁舎会議室1（津市安濃町東観音寺483番地）

費用：無料

申込み方法：3月25日までに電話・メール・ファックスで連絡。

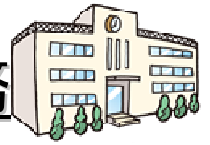
申込み・連絡先：津市障がい者相談支援センター

TEL059-272-4554（10：00～15：00）、fax059-229-1382

Eメール [tsu-soudan@true.ocn.ne.jp](mailto:tsu-soudan@true.ocn.ne.jp)

（文責 小・中学部 特別支援教育コーディネーター 西井孝明）

# 小・中学部コーディネーターの校内支援業務



## ＜児童生徒に対して＞

- ・児童生徒登下校時の挨拶とお辞儀の指導「おはようございます」「行ってらっしゃい」「さようなら」「またあした」等（小中昇降口で児童生徒全員）、及び児童の体調等のチェック（表情や言動など）
- ・給食時の食堂内での子ども達の様子の確認及び校内児童の言葉を発声するための指導及びコミュニケーション指導。
- ・日常的な子どもの観察及び緊急時の見守り、緊急時の応援。

## ＜学級に対して＞

- ・小学部 1 年生クラスへの「キャリア発達を育む授業づくり」をテーマに課題学習を中心に授業改善のアドバイスとして 1 年間のコンサルテーションを行う。
- ・その他、要請のあったクラスへの助言及び観察。

## ＜学校見学の対応＞

- ・外部機関による学校見学の対応。就学前の園児と保護者、短大生、施設職員、支援学級教員及び保護者と生徒、関係機関等

## ＜教育相談の対応＞

- ・来校相談 就学前園児の保護者、中学部への就学予定の保護者、本校保護者等
- ・電話相談 地域在住の保護者、就学前園児の保護者、本校保護者、関係機関等
- ・保護者に対して、家庭で行うカードによるコミュニケーション獲得のアドバイス。

## ＜本校職員の相談への対応＞

- ・授業作り、行動問題、保護者との対応、学級経営等、内容は多岐にわたる。

## ＜支援会議の実施＞

- ・支援会議の企画・運営・記録等 2 年間で 30 回以上 1 年目は司会中心、2 年目は記録及び同席。

## ＜心の健康相談（あすなろ西田 Dr）＞

- ・心の健康相談への同席（年間 6 回、2 年間で 12 回）

## ＜見え方への相談（草の実の教員）＞

- ・見え方が気になる子どもへの相談への同席（1 回）

## ＜校内での研修講師＞

- 「授業改善のためのビデオ撮影の方法・分析の視点」（小学部）
- 「本校のセンター的機能の取組」（本校：第五回地域支援講座）

## ＜広報活動＞

- ・ホームページ掲載用情報の作成
- ・特別支援部リーフレットの作成
- ・コーディネーター通信（昨年）、イナバタイムズ（今年）の作成、印刷、配布
- ・就学相談記録用紙の改善、各種様式の改善。

## ＜各種行事の写真・ビデオ係＞

- ・卒業式、入学式、学校祭、学部行事等のカメラ係

## ＜校内特別教室の視覚シンボル設置＞

- ・校内の特別教室やトイレ等の全ての視覚シンボル表示の作成および設置。

## ＜第五回地域支援講座関連＞

- ・校内職員による 14 講座の提案者・司会者・記録者・協力者への依頼、及び記録集のための原稿作成依頼

# 小・中学部コーディネーターの校外支援業務



## ＜校外で行われる研修会・事例検討会等の講師＞

- ・ A 中学校「発達障がい児への対応について」、B 小学校「特別な支援を必要とする児童への対応」、C 中学校「軽度発達障がいのある子への支援」

## ＜地域の小学校の児童観察と指導助言＞

- ・ B 小学校の児童の事例、D 小学校特別支援学級の児童の事例、E 小学校特別支援学級の児童の事例

## ＜学校コンサルテーション＞

- ・ E 小学校特別支援学級への半年間に渡る学校コンサルテーション。授業改善・児童への対応を含めた E 校の教員・支援員・管理職・コーディネーター・保護者及び児童への総合的な実践的アドバイス。保護者を含めた会議での助言を含む。

## ＜F 中学校区特別支援連絡会＞

- ・ アドバイザーとして出席、指導についての助言等。（今年度より 3 回）

## ＜就学指導委員及び就学指導委員会＞

- ・ 就学指導委員として 2 年間で 50 回以上の保育園・幼稚園の訪問。内容は園児の行動観察、保護者面談、園長及び保育士・教諭との面談、情報交換及び対応への助言。
- ・ 就学指導委員会への出席（年間を通じ数回）
- ・ 地域の特別支援学級への訪問及び見学、情報交換（10 数校）

## ＜各種協議会や連携会議への出席＞

- ・ 津市・中勢地区特別支援学校コーディネーター連絡会への出席（年間 1 回、計 2 回）
- ・ 平成 24 年度発達障がい支援作業部会（今年度 3 回）

## ＜研究大会等での研究発表＞

- ・ 「ビデオを活用した授業検討会とその効果」第 35 回東海地区特別支援学校知的障害教育研究大会 第 3 分科会「専門性の向上」口頭発表（岐阜）
- ・ 「特別支援学校のセンター的機能の取組から」平成 23 年度特別支援教育研究実践報告会 口頭発表（三重）

## ＜報告書等の執筆＞

- ・ 「授業力向上のためのビデオを活用した授業検討会とその効果」35 回東知研報告集
- ・ 「知的障害のある児童が自立的・主体的に活動参加できる小集団の授業づくり～1 年間の『朝の会』の授業改善を通して～」知的障害教育における専門性の向上と実際 シアース教育新社 p114～120 定価 1575 円

## ＜外部関係機関との連携強化＞

- ・ 津市福祉課、こども総合支援室、障がい者相談支援センター、児童相談所、津市教育委員会、県教育委員会、福祉施設等との日常的な連携。

## ＜地域支援講座・教育講演会＞

- ・ 地域支援講座及び教育講演会の企画・運営・情報発信・講師依頼及び対応（筑波大学熊谷恵子先生、ドロップレット青木高光先生）・関係機関対応・集録作成・配布。

まだまだございますが、紙面の都合上ここまでと致します。保護者の皆様、校内の職員の皆様、特別支援部の皆様、関係機関の皆様方のご協力のおかげで円滑に業務を行うことができました。ありがとうございました。来年度の体制につきましては未定ですが、更に皆様にとって望まれるコーディネーター、特別支援部でありたいと思います。今後とも稲葉特別支援学校及び特別支援部、そしてコーディネーターをどうぞよろしく願います。また、4月8日に元気な姿でお会いしましょう。（西井孝明）